

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300167		
法人名	有限会社 佐香		
事業所名	グループホーム 四季彩 さくら棟		
所在地	島根県出雲市灘分町204-2		
自己評価作成日	平成23年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中での話・行動・表情等に気をつけ、ご本人の心情を理解し、寄り添えるように心掛け、田畑・住宅・工場に囲まれた立地条件の中での触れ合いが持ちにくい環境ですが、積極的に散歩に出掛け挨拶や会釈・会話をするように心掛けると共に、一人一人の希望に出来るだけ添えるような外出など施設外に向け閉じ込めりのないような支援に努めています
 沢山の季節の物を栽培から収穫まで出来るよう柿畑・無花果畑・野菜畑(菜物・芋類・根菜類・花壇)を散歩やドライブをしながら出来る地区に設置しながらの方法で作業し食卓にも並べれるよう配慮しています
 施設内・外では季節の変化や季節ごとの催しに参加したり、その時期の食材の食事を提供することにより、季節感・町の状況・地域の人の交流をスタッフと共に感じながら行う

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

斐伊川土手の静かな地域にある、開設8年目を迎えたグループホームである。外出、散歩を日頃の日課とし、積極的に外に出ておられ、又、地域とのつながりも大切にされ、自治会への加入や避難訓練においての協力も得られている。障害者事業もされ、利用者同士の交流や、畑での野菜を作る→収穫→加工という工程を分担され、食につなげておられる取り組みをされている。重度化や終末期に向けた対応についてはじめてのケースが発生した場合でも直ぐに方针对応等の支援策を検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員・利用者・家族の常に目に入る場所に掲示し(玄関・ホール)実践に取り組んでいる	開設時よりの基本理念・理念は玄関とホールに理念を掲示しており、職員にも浸透しており、日々理念を意識して実践に生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入や地域行事・地域の小学校・中学校との定期的な交流・ホーム主催のお祭りに地域の婦人部の方に協力して頂いたり天気の良い日には散歩に出かけ顔見知りになり、日常的に触れ合いを大切にしている	自治会に加入し、とんど祭・敬老会などの行事に参加している。その他の地区行事にも民生委員さんの働きかけで参加している。中学生の福祉体験、小学校へ雑布の寄付などもしている。地域住民の一員として、近所付き合いや地元の活動等の交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の方に参加して頂き取組の働きかけをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での行事、日常の取り組みを報告し、新たな取組みの提案や意見を反映できるように会議で検討し生かしている。会議は協力委員の人数も増え家族会の代表の方にも参加して頂き意見も頂いている。	定期的に開催されており、行事、日常の取組の報告、話し合いを行われている。又、ご家族の参加もあり、少しずつ意見も出されており、サービスへつなげる努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも自治会と連絡を取り協力関係を築けるように努めている	運営推進会議への出席、又、定期的に来訪などもある。日頃より、あんしん支援センターとのつながりを持っている。又、生活保護の方が半数近いので、市役所とのつながりも密にしておられる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今後、マニュアルを作成し研修に参加し、認識を深めそのような行為につながらないように注意を払い防止に努めている	職員の意識は非常に有り、又、言葉遣い等にも注意を払い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又玄関の施錠は日中はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後マニュアルを作成し研修に参加し、認識を深めそのような行為につながらないように注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員は学ぶ機会があるが、全職員に周知できておらず、情報・知識の共有できるよう職員会議等で、伝達講習をおこなったり、今後職場内研修を実施して理解を深めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず契約時前にご家族様・ご本人様も施設を見学してもらいながら説明を行い、契約時には同意を得た上で行っている。退所時もきちんと話し合い理解納得を得てから行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者の方とゆづくりと話のできる環境を作り、意見・要望を聞くようにし、面会時には近況報告と共に意見・要望をつたえていただいている。職員間での情報の共有・伝達・記録・周知の徹底もできている	家族ははっきりと要望等をいわれる。職員間での情報の共有・伝達・記録・周知の体制できており運営会議等でも報告している。意見については、スタッフ会議などで伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常頃から意見や提案をしやすいその都度意見交換をし、ほぼ反映できている。記録、伝達も出来ている	意見や提案をしやすい(雰囲気のみで事業所外で個別に話をする等)、会議録で確認、回答結果も書面で周知を図っている。職員の意見を聞くよう、定期会議の日を設けている。	夜勤は専任であるため日勤との意見交換できる機会を増やされることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の特性を理解し、適切なアドバイスをおこなっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が均等に外部研修を受ける機会を確保すべき。外部研修をはじめ研修を受ける機会は確保されているが、職員の向上が不十分なため、伝達講習を徹底し共有できるよう努めてゆきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や小規模ケア連絡会に加入しネットワーク作りや情報収集しているが、交流の機会が少なく、職員交流研修や見学・意見交換等によりケアの質の向上を図りたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み時、職員が必ず直接本人様に会いグループホームで生活することに関して意見・要望を聞き、悩み・不安等受け止めるように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の施設見学・契約時にご家族様と情報交換の場を設定し悩みや訴え・要望を聞き把握している。随時話し合いの要望があれば場所作りを設定している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ケアマネ・職員と共に情報交換しながらご本人・ご家族様の意向をふまえたサービス・支援の提供ができるように対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・畑仕事を一緒に行ったり、食事・お茶等日常生活を共にし、本人の思いに添って利用者から昔話や知恵等を聞いたり見たりして学んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内の祭りの呼びかけはできている。施設内の祭りにはご家族様への呼びかけをしたり、遠足等の行事の参加も呼びかけ共に利用者・家族様と職員の接点を設け信頼関係を築けるように努めて行きたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院・理髪店・お墓参り・病院等ご本人様が行きたいと要望があれば家族・又はスタッフが付添い、関係が継続できるように支援している	家族へ「外出や墓参り、日宅へ帰り仏様を拜む」ことの支援の協力を投げ掛けているが、家族が出来ない時は、グループホームでの支援をしている。又、地域の理美容院等の利用や墓参り等馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方を同じテーブルにしてあげたり、一緒に作業をしていただいたり、散歩や外出等、共に関わり合いを機会を作り、話し相手をし孤立しないようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、他施設・病院へ面会に行き様子伺いをしたり関係を保つようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話の中で、本人の希望・意向を聞き出すように努め本人の意向が把握困難な場合には職員の都合にならないように注意し、様々な視点から思いや意向の把握に努めている	日々、スタッフが希望や意向を聞くようになっている。ケアマネも定期的に聞いており、ユニット会議で話し合いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にできるだけご家族様・ご本人様からこれまでの生活歴や暮らし方の情報収集を行っているが、入所後もその後の意向や話を聞くように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を共にし生活の様子を介護記録に記入し、職員・ケアマネ間での情報提供・申し送りを行い状況や状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知度の軽い利用者の方は面談し、意向・要望を聞きケアプランに取り入れている。又ご家族様・関係者とも話し合いの機会をもち作成している	ケアマネージャーも介護を実践しており、本人・家族・関係者、スタッフと話し合いながら、計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式の記入を変えたことにより、以前に比べケアの実践・結果・気づきを共有できるようになり、介護計画の見直しができるようになってきた		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様と情報を共有しながら状況の変化や要望を把握し、日々の対応や外出・外泊など柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し協力体制ができており、ホーム内の理解に努めて戴いてるため、地区の行事や近隣の行事等参加する機会も作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族様の希望を確認して適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、協力医院へかかっており、定期・夜間往診もある。必要時は専門医の受診できるよう支援されている。希望があれば通院の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状況を把握し、健康管理や医療面の管理をしている。必要時にはご家族様に情報提供も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、相談員やご家族との連携をとり、情報交換をしつつ退院後の生活に支障や不安がないように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養の入所が決定されると、特養に入所されるケースが多い為、ご本人・ご家族様の意向をもとに検討している。また、当施設での終末期についても、ご本人、家族様の意向をもとに対応している	現在「終末期」と医師から告げられた利用者がおられるが、家族・医師・スタッフの間での話し合いが十分でなく、戸惑っておられた。看取りの方針はあるが、具体的な話が出来ておらず、スタッフは不安を抱えている。	終末期、看取りへの取り組みの方針をグループホームとして立てられ、スタッフの死生観の研修をされ、又、十分な家族・医師・スタッフ間での話し合いの基、支援して頂きたいです。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施が徹底でき、地域の方にも参加して頂いている(飲食の備蓄もできている)	年2回の避難訓練実施している。又、訓練時地区の方も皆参加され協力体制も出来ている。食料・水等の備蓄も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないよう、個人的な情報はご利用様がいらっしやらない所で行っている。記録物等目の届かない所に保管するように配慮している。排泄の声掛けには小声で行い周りに配慮して行っている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを実践出来るよう、努力しておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを表わしやすい関係作りやコミュニケーションを密にしている。現物を見て選べる状況を作ったり、関心を持たれるような支援をするように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望を取り入れながら、一人ひとりのペースに合わせて過ごせるように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホール内での容姿に気を配り可能な限り服はご本人に選んでもらい、定期的に美・理容室に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のペースに合わせた声掛けは適宜行っている	食事の盛り付けや後片づけなども、役割分担をされ、利用者も生き生きとしておられたが、管理者としては食事中の雰囲気作りをして、楽しい食事の提供を望んでおられる。又、障害者と連携し、畑でできた収穫物を一緒に料理を作ったり、片付けをされている。	目標達成計画で立てられた目標に対する取組の成果があげられるよう一層の対応を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは同じであるが、要望も取り入れ摂取しやすい状態にし必要な栄養がとれるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは習慣化し、声掛け・見守り・介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導し、リハビリパンツや尿パットの使用量を減らすように支援をしている	個人パターンを把握し、オムツ等の使用量を減らすよう(月8千円迄)支援している。自立に向けた指導等により効果を挙げておられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等からだを動かす機会を作っている。水分はできるだけ多く摂取してもらうようにしている。また食物繊維や乳製品の摂取を心掛けている。必要に応じて薬での調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の健康状態に応じ、午前中入浴を行ったり、足浴・手浴・清拭等行っている	希望があれば毎日入浴されている。車椅子の方も週に3日程度の入浴をされている。夕方の入浴も、希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせた室温を設定したりしている。寝付けない時など温かい飲み物を提供したり安心してできるような話をする場を設けるような対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を個人記録にファイルし、全職員がすぐに分かるようにしている。又薬の変更等があった場合はすぐに差し替えている。服薬確認票をつくり、誤薬や飲み忘れのないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技を活かし、調理・畑・園芸・裁縫・生け花等、自ら役割を持って行なってもらい常に感謝の言葉を添えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・墓参り・散髪・買物・花見等希望を聞きながら出来るだけ機会を作っている。年に2~3回はご利用様が行きたいところを考慮しながら遠足の計画を立て行っている	暖かく、お天気の良い日は、毎日のように散歩に出掛けられる。又、月1回はユニット毎に計画をして、車での外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族了承のもとお金の管理は行っていない。必要な時は使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される場合は手紙のやりとりや、電話をされるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、季節に合わせた飾りを作り掲示する。テレビやラジオの音量もご利用者の方に尋ね調節している。中庭に花壇があるがもっと活用し季節を感じるように工夫したい	季節の花が飾ってあったり、壁面の飾り、ちぎり絵も季節感のあるものであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭いが、冬はこたつを用意し、気の合った利用者同士で気軽に過ごせるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や使いやすい収納用品が持ち込まれている。またテレビ・ラジオ・写真・人形・花等飾り、本人が居心地よく過ごせるような空間作りをしている	部屋には作品を壁に飾ってある。家具を持ってきている方は少なく、他の物は殆ど収納に入れているので部屋の中はすっきりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下・トイレ・浴室に手すりが設置しており玄関・中庭にはスロープも設置しれある。ホーム内においてはあまり段差のない作りになっている		